

事例報告書作成の手引き

平成23年10月1日
栃木県作業療法士会教育部

1、 同意を得る

県士会ホームページより「同意説明文」をダウンロードし、対象者（または代諾者）に十分な説明を行い、事例検討報告会に参加し、事例報告する旨の同意を得て下さい。対象者が未成年の場合、対象者からインフォームド・コンセントを受ける事が困難な場合（死亡例を含む）には代諾者の同意を得て下さい。

2、 事例報告書の書式

（1）報告の目的

症例報告の目的を述べる。本症例報告のテーマを具体的に明確に述べる。「担当し、改善と知見が得られたので報告する」といった記述にあたり、報告のテーマが明確に伝わるよう、なぜその症例を取り上げたか、報告を通して視聴者へ伝えたいことは何かを具体的・端的に述べる。テーマを絞り、長期介入した場合は期間を限定したり、複数の問題に介入した場合でもその問題点を絞るなどの工夫をする。ここでのインパクト・テーマの明確さが視聴者への関心を高める。

（2）事例紹介

年齢、性別、疾患名、現病歴、既往歴、家族構成、職業など、主に医学的所見も含めた個人因子・環境因子に該当する部分となる。今回の報告で特に関連のある事項を優先して記述する。事例紹介に関しては下表を参照して、個人情報保護に十分に配慮すること。

項目	注意事項
1. 氏名	A氏、Bさん等の記号情報に置き換える。イニシャル（SH氏等）は使用しない。
2. 生年月日	記載しない。
3. 入院年月日	記載しない。
4. 年齢	生活年齢を記述するが、経過の記述と併せて内容に影響を与えない場合には50代前半、60代半ば、70代後半等と略記する。
5. 経過の記述	「25歳時に結婚」「29歳時に発症」「31歳時に入院し3カ月後に作業療法を開始」など、生活年齢と経過年数・月数・日数で表記する。
6. 職歴	自動車販売、運送業、デパート勤務など、業種・職種で表記し、〇〇株式会社等の社名は記載しない。
7. 施設名	施設名は記述せず、総合病院、精神科病院、老人デイサービスセンター、老人保健施設等の領域分類、または精神療養病棟、回復期リハビリテーション病棟、訪問リハビリテーションなど、認可施設・指定サービス分類等の名称で表現する。
8. 県名・地名	A県、B市等の記号化した情報を用いる。イニシャルは使用しない。 その他、地域が限定されるような表現は極力避ける。

（3）作業療法評価

主に介入前の評価のまとめと解釈として記述する。全体像として主な活動及び参加状況とそれらに関連した健康状態や心身の状況、背景因子についてまとめる。

また、報告のテーマに関わる主要な問題点等について記述する。データの提示に関しては、テーマに関連したもの限定し、数字の羅列にならないようにする。

評価表・検査に関しても、データはテーマに関連したもの限定し、その他に関してはまとめとして記述する。

観察評価については、観察の視点を明確にし、事実情報のみを記述する。対象者本人や家族の訴えに希望などについても触れておく。

（４）介入の基本方針

目標あるいは目的達成のために、どのような方針で作業療法を進めたのかを具体的に述べてください。いくつかの基本方針を順次進める場合と、同時進行させる場合とがありますが、いずれも基本方針が複数にわたる場合にはわかりやすい記述に努めてください。介入にあたり作業療法の実践モデルがある場合には、モデルや理論の名称を記載してください。

（５）作業療法実施計画（プログラム）

テーマに沿った目標に限定し、その目標に対する介入方法について記述する。実施課題・作業、形態、頻度、期間や関わり方など。目標達成に向け、作業療法士がどのような意図を持って作業を選択し、どのように関わるのかを明確且つ具体的に記述する。

（６）介入経過

計画に記述した内容と関連したことに絞り、「どのような経過」をたどったのかを述べる。項目をつける、時期を分ける、プログラムの変更やその理由、データの変化など整理して、伝わりやすい工夫をする。作業療法士が感じたこと、考えたことなどを理由としての事実として記述しても構わない。

（７）結果

介入後の評価のまとめとして記述する。内容に関しては「（３）作業療法評価」と同様になるが、主に変化した内容、データを具体的に記述する。

作業療法の介入によって、対象者の方の生活がどのように変化したのか、その事実情報を具体的に記述するとよい。

（８）考察

「（７）結果」で記述した内容についての解釈を記述する。

今回のテーマに沿った自分なりの解釈や考えを述べる。主な内容として、

- ① 介入によってどのような結果が得られ、それらはどのような理由によるのか。
- ② 今回の実践により、対象者の活動や参加にどのような変化をもたらしたのか。対象者にとっての意味や価値、QOLへの視点について。
- ③ 今回の実践結果と先行研究などとの比較について。
- ④ 臨床的な意義や応用、活用などについて。
- ⑤ 今後の介入方針や予後について。

など。

箇条書きや図式の挿入など伝わりやすい工夫と整理をして述べる。今回のテーマを通して考えたこと感じたことを素直に表現する。考察を裏付けるような理論的背景や文献・研究などある場合には明確に示す。

3、 その他

- ① 事例報告書はA4用紙2枚にまとめる。
- ② 字体・文末の表現は統一する。
- ③ 項目・見出しは本文と字体を変えるなど見やすい工夫をする。また、各項目はこの書式を参考にし、各自適切な表現・配置を考慮してよい。